

フーパ

～ 女性建築士の輪 ～

奈良県建築士会 女性委員会

2019 年 夏号

第 98 号



當麻寺

目 次

■ 近畿の「魅力ある和の空間」 巡行	庄田 尚代	P 1-2
■ 職人さんに聴く!! ― 左官職人 宮奥 淳司 氏	(聴き手) 渡邊 有佳子	P 3-4
■ 空き家再生セミナーに参加して	野村 亜希子	P 5-7
■ 私の好きな「無鄰菴庭園」	奥 宏美	P 8
■ 女性委員会だより	相河 真弓	P 9
■ 編集者が選ぶフォトジェニックスポット		P 10
■ 今後の事業予定		P 10

近畿の「魅力ある和の空間」 巡行

庄田 尚代

日本建築士会連合会 女性委員会で取り組んでいる「魅力ある和の空間」ガイドブックWEB版が昨年夏に完成しました。実際に訪れてみたい魅力的な場所が沢山載っています。近畿建築士会協議会女性部会（近建女）では、ガイドブックの中からまずは近畿2府4県の「魅力ある和の空間」を巡行し、その地の歴史、文化も併せて学ぼうとその第1回目の企画を奈良で実施しました。

3月30日(土)、志賀直哉旧居(奈良学園セミナーハウス)。参加者は、15名。滋賀士会山本会長、奈良士会米村会長もご出席くださいました。今回の見学会は、近建女担当部会長の山本規子さんが改修工事の設計・監理をされていたのでとても詳細な説明や設計中の苦労など裏話を聞くことができました。



外観



2階客間で施設概要の説明を受ける

志賀直哉旧居は、直哉が自ら構想し、京都の数寄屋大工の下島松之助が昭和4年に竣工させた住宅で、その後売却、戦後進駐軍に接收、厚生省の買収、そして建替計画までであったそうですが、近隣住民による保存運動のおかげで現存することができ、現在、奈良学園セミナーハウスとなっています。

(建物概要)

種別 県指定有形文化財(建造物)

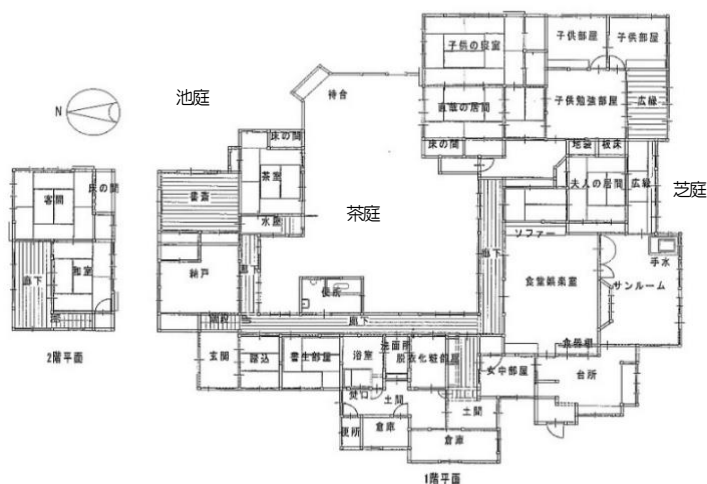
名称 志賀直哉旧居(奈良学園セミナーハウス)

時代 主屋 1929年(昭和4年)

構造 主屋：木造、平屋建て一部2階建て、棧瓦葺
待合：木造、杉皮葺 倉庫：木造、棧瓦葺
表門・棟門：棧瓦葺 塀・土塀：棧瓦葺

建物はとても静かで落ち着いた雰囲気の通りに面しており、洋風のデザインを取り入れた数寄屋造りとなっています。

内部に入ると主屋に面した池庭、中央部の茶庭、南にある芝庭があり、どこにいても庭を眺めることができ、自然を感じることができます。



平面図



食堂 床は松板張り、漆喰塗りの折上げ天井、障子



食堂の皮張りソファ



サンルームから芝庭を見る。庭の右奥に子供のための屋根付きプール



サンルームの採光窓

(写真・平面図 山本氏提供)

私は「暗夜行路の作者は志賀直哉！白樺派」というような知識しかありませんでした。今回この場所を訪れて、文人志賀直哉が書斎の窓から見た庭や山並を見て、自然に対する深い憧憬を持っていたことを感じました。

また家族団らんのために作った食堂やサンルーム、家族を思ってデザインした家具類、格子の下地窓になっていて風通しの良い子供部屋、病気がちな妻が子供たちをどこからでも感じられるような間取りと仕掛け、子供たちが走り回ることができる芝庭や小さな屋根付きプールを見て、直哉の家族への深い愛を感じることができました。

■奈良学園セミナーハウス志賀直哉旧居のご案内

(※奈良学園セミナーハウス志賀直哉旧居HPより引用)

□利用案内

開館時間	午前9:30～午後5:30 (3月～11月) 午前9:30～午後4:30 (12月～2月)
入館料 (30名以上の場合は団体割引)	一般 : 350円 (団体: 300円) 中学生 : 200円 (団体: 160円) 小学生 : 100円 (団体: 80円)
休館日	年末年始 (12/28～1/5) 文化活動等に限り、貸切利用が可能です。 事前にご相談ください。
所在地	奈良市高畑町1237-2
連絡先	0742-26-6490 (TEL&FAX)

□アクセス

お車での場合	県営高畑駐車場をご利用ください
電車、バスの場合	JR奈良駅、近鉄奈良駅下車 (市内循環バス) 奈良交通バス約10分「破石町」バス停下車 東へ徒歩4分、北へ1分、旧居の標識があります。



職人さんに聴く!!

今回の職人さんは 左官職人
宮奥左官工業 宮奥 淳司 氏



今回は、宇陀市で左官業を営んでおられる宮奥淳司氏に左官職人の話をお聞きします。今年修復された中家住宅（安堵町）のかまどの前で、中様もご同席いただき、お話をお聞きしました。

— 何がきっかけで左官職人になられたのですか？

宮奥：実家の家業を継ぎました。学生時代は都会の生活に憧れていたもので、一時は会社勤めをしていました。営業職だったのですが、結果だけが評価される世界は向いていないと思ったので退職しました。実は自分から家業を継いだのではなく、会社を退職した後、母親からブラブラしているなら父親の手伝いをしろと言われ、仕方なくという感じでした。

— 仕方なく始められたのには驚きました。その後、左官のお仕事を長年されていますが、どのような心境の変化があったのですか？

宮奥：父親と宇陀松山の町家の改修現場に行くことが多かったのですが、現場に行くと単純に「昔の人はすごいな。」と思いました。100年前の職人が、道具も材料も限られたものしかない中で工夫して現代に

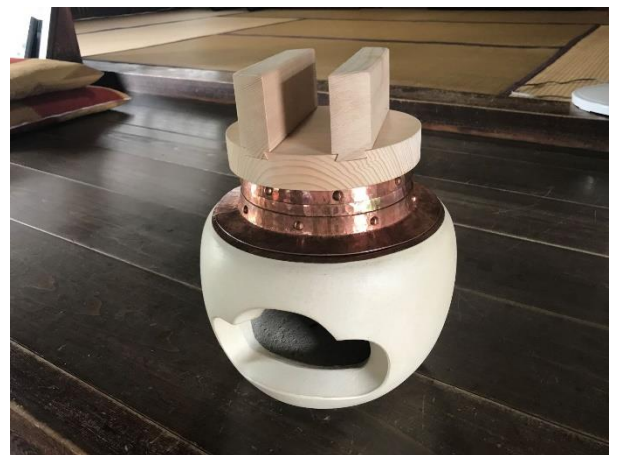
残る仕事をしていることに感動し、尊敬の念を抱きました。少しでもそんな職人達に近づきたいという思いが湧きました。

— 左官職人さんのお仕事について教えてください。

宮奥：かつて左官は家を建てる三大要素のひとつでした。大工、屋根、左官です。左官は壁を造ります。土や漆喰などで壁面を造る仕事です。しかし現代社会では建築材料のほとんどが工業製品になりました。管理しにくい素材は排除されていきます。左官の仕事は激減し、非常に厳しい時代になったと感じています。一般住宅の仕事はここ数年ほとんどありません。

— 仕事がないというのは非常に厳しいですね。

宮奥：ですから寺社建築の改修の仕事に携わるようになりました。それと、かつてより風呂やかまどなどの雑工事も左官職人の仕事でしたので、実際に使えるかまどを提案しています。全国からかまどの新設依頼があり、メディアに取り上げられたりもしています。持ち運べる小さいかまどを制作してホームページで販売していますが、それもとても好評です。



持ち運べる小さなかまど

— すごい反響ですね。

では、この中家住宅のかまどの修復の際のお話を聞かせてください。

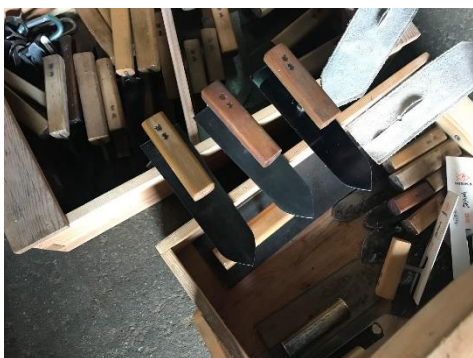
宮奥：ご縁があつて修復の仕事のお話があつた時には、職人欲を掻き立てられました。中家のかまどの歴史の1ページを刻めるならと気合が入りましたね。

これだけ大きなかまどを一気に仕上げるために、腕のいい職人7人でチームを作り、最終仕上げの工程では朝8時から深夜0時までかかりました。終わった時は大きな達成感を味わいました。この仕事とのめぐりあわせに感謝しました。

左官職人同士の縁にも感謝しています。かつては地域にたくさんいた腕のいい職人が、今は地域に一人になってしまいました。文化財の改修の仕事のご縁で、いろんな地域の左官職人と縁を繋ぐことができ、今回のチームを作ることができました。



かまどの装飾部分は小さなこてで仕上げる



たくさんの左官道具

中：7人の職人さんが、狭いところでチームワークよく作業をされていて感心しました。手際が良くてまるでショーを見ているようでした。私には見守ることしかできませんでしたが、「よかったね、やっときれいになるね」とかまどに話しかけていました。



中さんと宮奥さん 中家住宅のかまどの前にて

— 最後に宮奥さんから建築士に伝えたいことがあれば、お聞かせください。

宮奥：現代の新築住宅の壁の材料といえば、石膏ボードとビニルクロスが主流になっています。仕上げに珪藻土や漆喰を使うことはありますが、壁はボードの工事になってしまいました。

コストと施工期間、法的なことはあるのですが、土壁が選択の土俵にまったく乗らなくなってしまっていることはとても残念です。建築士のみなさんには、設計の段階で壁の仕上げをどうするのかだけでなく、壁を何で作るのかを検討してほしいです。間々に土を塗ることもできますので。土壁のことで知りたいことがあれば、何でも聞いてください。

— 壁の材料については、本当にその通りですね。かつては当たり前だった土壁が、特殊なものになってしまいました。土壁のことをもっと知りたくなりました。

本日は、本当にありがとうございました。

聴き手：渡邊 有佳子

— 中さんにもお話を聞いてもよろしいでしょうか。かまどの修復作業を見て、どんな感想を持たれましたか？

空き家再生セミナーに参加して

野村 亜希子

2019年6月2日、新建築家技術者集団（新建）奈良支部が主催する「“いいもの長く”空き家民家を直して住む 住まい手と設計者が語る 空き家再生セミナー」に参加いたしました。昨年行われた生駒市の築50年の空き家の改修工事について、設計者、住まい手の双方からお話を聞くことができるという大変興味深い企画でした。



築50年 田舎型民家

設計者として改修の概要をご紹介いただいたのは、建築士会生駒支部会員、女性委員会副委員長でもある岩城由里子さん。実は、昨年



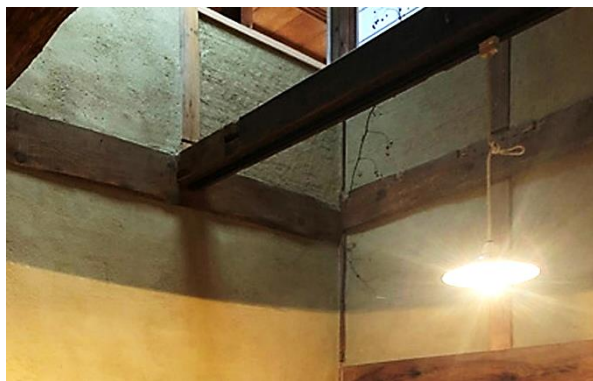
設計者 岩城 由里子さん

12月、生駒支部主催でこの民家の改修後の見学会が開催され、私も拝見させていただきました。

岩城さんのお話の内容から、この民家再生のポイントは、大きく次の2点にまとめられるのではないかと思います。

- ・住まい手がDIYで改修に関わること
- ・間取りや素材など、この民家が持つ良さを活かすこと

職人さんの手ほどきを受けながらDIYで改修に関わりたいというのは、住まい手ご夫婦たつの希望だったそうです。まず解体から関わられたそうで、左官、塗装、襖の張替えなどに取り組まれたそうです。特に土壁は、左官屋さんの指導のもと、7割近くを住まい手ご家族が塗られたとのこと。素人ならではの風合いが感じられる壁になったそうです。



吹抜け上部の天窓から差し込む光が土壁の風合いを際立たせる

この民家の持つ良さは、つまり昔ながらの日本の家が持つ良さです。大きな特徴の一つとして田の字型の和室がありますが、襖の開閉によって得られる空間の可変性を活かし、見通しのきくキッチンが実現したそうです。急勾配の階段を撤去し、新たな階段を別の場所に設けたこと、別棟にあった浴室や洗面を新たに建物内に設置したこと以外、大きな間取りの変更はされていません。

また、昔の家はほとんどが自然素材でできていますが、この民家の場合も、土壁の解体時に出た古い土を新しい土に混ぜて使うなど、リサイクルが可能だったとのこと。さらに、昔の家で使われている建具は職人さん手づくりの良質なものが多く、この民家でも元々の建具を修理して再利用されたそうです。他の民家の解体で得られた100年以上前の建具も取り入れたそうです。



田の字型の和室 開放感が感じられる



見通しのきくキッチン 和室奥の床の間が見える



玄関ホールから和室へ 良質な古建具を再利用



新たに設けた洗面コーナー 舞良戸は古建具

しかしながら、昔の家は真壁のため、壁に断熱材を入れることが難しく、どのように断熱性を高めるかが課題だったそうです。熱の出入りが最も大きい窓の断熱性を高めたことは効果があり、また、体感温度として温かく感じる素材、例えば杉を床に用いたことで、居心地の良い空間を得ることができたそうです。



和室の床の一部には杉の厚板を用いた

次に、住まい手としてお話しされたのは小野恭子さん。空き家を再生して住むことを決めた経緯、DIYで自ら再生に取り組んだ経験、改修後の住み心地などについてお話をいただきました。



住まい手 小野 恭子さん

小野さんは生駒市で生まれ育ち、大学進学を機に地元を離れたそうです。以来、首都圏に住み、働きながら3人のお子さんを育

ててこられたそうです。2011年3月11日、東日本大震災を経験したこと、3人目のお子さんが重度のアレルギーを発症したことなどをきっかけに、自然豊かな生駒で子育てをしたい、仕事に縛られない生き方をしたいと思うようになり、2年前にご家族で生駒に移住されたそうです。しかし、移住を決めた当初は、吉野の森を見学するツアーに参加されたご経験から、奈良の木を使った新築を希望されていたそうです。

そんな小野さんご家族が、空き家を購入し、改修して住むことになったきっかけは、ご実家の近くの空き家との出会いでした。小野さんはそのお家とのご縁を感じ、「いいもの長く」を実現したいとの思いに駆られたそうです。ご自身が本当に欲しいものは何かを見つめ直した時、住みやすい間取りと自然素材でできた家は新築でなくても実現可能では？という思いに至ったそうです。

改修工事にあたり、小野さんが岩城さんに出した要望の一つは、前述した内容とも重なりますが、コスト削減と体験のために、可能な限りDIYをしたいということでした。小野さんご夫婦は、DIYに取り組む中で、先の見えない作業のように感じることもあり、何度か心が折れそうになり、夫婦喧嘩もあったそうです。作業に慣れるにつれ効率も上がり、乗り切ることができたそうです。

また、小野さんご自身は古いものを大切にしたい気持ちでいましたが、夫の弘太郎さんは古いものを使うことにあまり積極的ではなかったそうです。ところが改修が進む中、そんな弘太郎さんに変化が見られ、近所の解体現場で自ら古建具を譲り受けてくるまでになったそうです。

改修工事において、小野さんが特にこだわったのは、①薪ストーブ ②アイランドキッチン ③スケルトン階段 ④土間とボルダリング壁（息子さんのご希望） ⑤田の字型の和室空間 だそうです。

改修後のお家を見学させていただいた時、そのすべてが空間に無理なく配置され、溶け込んでいて、あらためて岩城さんの力量を感じました。



アイランド型の作業台を設けたキッチン



スケルトン階段のある玄関ホール



2階に上がることができるボルダリング壁

※お家の写真はすべて岩城さんよりご提供いただきました。

改修後の住み心地については、土壁や杉板の床、縁側の効果により、夏は涼しく、冬は暖かく過ごしていられるとのこと。また、薪ストーブは温度以上のぬくもりが感じられるそうです。田の字型の和室は、襖で臨機応変に変えられる使いやすさを気に入っていられるようで、お客様にもくつろげると好評だそうです。「岩城さんに120%満足」とおっしゃっていました。

ところで、小野さんご家族は、改修工事中もこの民家に住んでおられました。つまり、毎日毎日変化していくお家と共に過ごされていたわけですが、その中で職人さんの技の凄さを目の当たりにし、毎日コツコツとつくりあげて下さることへのありがたさを感じることができたそうです。

最後に、「こうあるべきよりどうしたいかを優先したい」と述べておられたのが印象的です。それを形にした小野さんの決断力と行動力は素晴らしいと思います。

この民家再生においては、住まい手である小野さんご家族、設計者である岩城さんが共にこの民家に魅力を感じ、良さを活かしたいという一致した気持ちがあったからこそ、見事に甦らせることができたのではないかと感じます。また、木の家の設計を多く手がける岩城さんならではの、木の良さを引き出すシンプルなデザインがこの民家に溶け込みつつ、新しい風を吹き込んだような気がします。



会場(生駒市たけまるホール 研修室)の様子

この空き家再生セミナーに参加し、大変有意義な時間を過ごすことができました。岩城さん、小野さん、そして関係者の方々にあらためてお礼申し上げます。

もうご存知の方も多いかとは思いますが、京都 無鄰菴（京都市左京区南禅寺草川町）の庭園をご紹介しますと思います。

無鄰菴は、明治29年に完成した明治・大正の元老山縣有朋の別邸で、庭園は国の名勝庭園に指定されています。明治から昭和の初期にかけて建てられた南禅寺界限別荘群の一つです。周辺は観光地ですが、一步中に入るととても静かで、東西に長い敷地には木造二階建ての母屋と茶室、そのすぐそばに二階建ての洋館、そして東山を借景とした庭園が広がります。



庭園は、山縣有朋が自ら設計し、七代目小川治兵衛により作庭されました。

木々に囲まれ緩やかに傾斜をしている庭園は、中央に芝生が張られ、奥の方には三段の滝があり、琵琶湖疏水から引いた小川が流れています。



有朋は当初作庭をするにあたり、

- ・コケの代わりに芝生を張る
- ・瀑布の岩石の間にシダを植える

- ・京都では庭木としてあまり使われることのなかったモミを植える
- ・水が滞留する池ではなく流れを施すと、自ら指示。京都の伝統的な作風を好まず、自然風の庭園を望んだようです。

また、庭園の向こうに見える東山ですが、この東山を主山として庭園が構成されています。野趣に富み、琵琶湖疏水から水を引き、東山を取り込む。この庭園には有朋の思いが随所にちりばめられています。

ところで、当初コケより芝を好んだ有朋でしたが、後に愛でる対象がコケに遷移していったようです。それは、庭園の立地や庭園内の環境により、作庭時に構想した庭園の景色が、自然の織りなす経年の遷移により変化する情景を受け入れ、新たな趣を見いだしたのではと考えられています。



私が訪れた日にも芝生には野鳥がいて、木々やコケの緑、水の流れ、これらが心地よく感じました。作庭の趣旨を知って眺める庭園は、また一味違います。無鄰菴の外は大きく様変わりしても、庭園と東山との間には今日も遮るものはなく、時間の経過を感じさせませんでした。

母屋から庭園を眺めていると、山縣有朋もここで四季折々の景色を眺め、楽しんでいただろうと思ってしまう。

日本庭園には石庭がありとても心落ち着きますよね。でも、春、木々が芽吹くこの頃、野趣に富んだ無鄰菴庭園はいいです。

最後に、明治36年の「無鄰菴会議」は、ここにある洋館で開かれています。明治・大正という時代背景、そこに生きた人々に思いを馳せるのも楽しみのひとつです。



※無鄰菴に置かれていた資料を引用しました。



建築士会館 1階会議室 出席委員 13名

6月11日(火)に令和元年度第1回 女性委員会会議が行われました。議題は下記内容です。

皆さん、お仕事を終えてからの会議なので、お疲れの中ではありましたが、各議題に対して意見交換ができ、今後の各部会の活動についてお互い再確認できる良い時間を持つことができました。

連合会女性委員会「魅力ある和の空間」ガイドブックの追加推薦2件は「依水園」と「奈良町宿 紀寺の家」です。どちらも大変魅力的な空間です。奈良には本当に魅力のある建築物が多いと感じます。日本建築士会連合会 女性委員会のページには「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」が上部に配置され、全国の魅力ある空間が紹介されています。是非、覗いてみて下さい。

女性委員会の方も会員外の方もご興味のある活動がありましたら是非ご参加下さい。

(相河 真弓)

議題

(1)令和元年度女性委員会体制と事業実施計画

- 広報部会 フープ、グループメール更新
- 和室研究部会 見学会
- 福まち部会 研修会
- 近建女

「第6回くらしとすまいをみつめるセミナー」

(2)連合会女性委員会

「魅力ある和の空間」ガイドブック

(3)近畿・連合会事業予定

- 第29回全国女性建築士連絡協議会(東京)
- 第62回全国大会函館大会
- 近畿建築祭 奈良県春日野国際フォーラム薨

(4)近建祭





南禅寺水路閣

皆さんよくご存じの、南禅寺水路閣です。南禅寺の境内を通過する水路橋は、今も現役の水路として琵琶湖の水を京都へ運んでいます。古びたレンガ造りのアーチの連続が東山の緑に溶け込むように馴染んでいます。雨上がりの朝早い時間、澄んだ空気の中で眺める水路閣は格別です。

■撮影場所 案内図



住所：京都府京都市左京区南禅寺福地町

今後の事業予定

2019 年

8 月

13～15 日（火）～（木） 事務局お盆休業日

21 日（水） 監理技術者講習

28 日（水） 第二期 建築士定期講習

9 月

15 日（日） 二級建築士試験（設計製図）

19 日（木） 監理技術者講習

21 日（土） 第 62 回 建築士会全国大会
[北海道大会]

10 月

3 日（木） 既存住宅状況調査技術者講習
（新規講習）

13 日（日） 一級・木造建築士試験
（設計製図）

23 日（水） 監理技術者講習

編集後記

今年の梅雨はとても長く感じています。フープの夏号が皆様に届く頃には、太陽が眩しい夏の晴れ間が広がっているのでしょうか？

今号は特集を組ませて頂いた訳ではないのですが、全体を通して「和」の良さを感じて頂ける回になったように思います。

時の流れと共に、建物の構造や工法、使う材料が変わってしまいましたが、今回、皆様の原稿を拝読させて頂いて、古い和の空間というのは、必死で守っておられる方（お住まいの方や職人さん）、そして再生したいと思う方がいて、大切にされてきた空間だからこそ、目にした時に温かい気持ちになり、心が安らぐのだなと感じました。

私は建築に携わる者として、かつて当たり前だった日本の建物についてもっと知る事、そしてその良さを伝える役割を担っている事を、改めて実感しました。

庄田さん、相河さんの記事でも触れられていますが、日本建築士会連合会 女性委員会 の「魅力ある和の空間」に掲載されている場所は、厳選されているだけあり、どれも訪れてみたい！と思う空間です。「職人さんに聴く!!」のコーナーでお世話になった中家住宅も掲載されています。是非ご覧になって下さい。

今回ご寄稿頂いた皆様、貴重なお話を聞かせて頂いて大変勉強になりました。お忙しい中、お時間を割いて頂きありがとうございます。

（瓶割 環）